

送信先 報道各位
送信枚数 本紙を含めて 7 枚
送信日 2025 年 10 月 22 日



エンリッチメント大賞「正田賞」受賞のお知らせ（日本モンキーセンター）

平素は当財団の事業につきまして、格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

当園では、NPO 法人市民 ZOO ネットワーク（東京都杉並区）が開催する今年度の「エンリッチメント大賞 2025」において、栄えある「正田賞」を受賞しました。当園の取り組みについて多くの方に知っていただけるよう、貴メディアにてご紹介ください。何卒よろしくお願いいたします。

■「エンリッチメント大賞」および「正田賞」とは

動物園・水族館に対する社会的な意識を高め、環境エンリッチメント（飼育動物たちの生活環境を豊かにするさまざまな工夫・試み）を推進するため、東京に拠点を置く NPO 法人「市民 ZOO ネットワーク」により毎年開催されているものです。2025 年度で第 24 回目となりました。

「正田賞」とは、エンリッチメント大賞内の各賞として設けられているもので、「市民に対して動物福祉を伝えるという点で高く評価されるものや、市民との連携という点で優れていると評価されるもの」に対して与えられます。“市民と動物園の架け橋”となることを願ってさまざまな取り組みを進められるとともに、エンリッチメント大賞の初回から審査委員を務められた、故・正田陽一先生（東京大学名誉教授、2016 年に逝去）にちなんで設けられた賞です。

日本モンキーセンターがエンリッチメント大賞や関連する賞を受賞するのは**今回が初めて**となります。（過去に5つの取り組みで一次審査は通過していましたが、受賞には至っていませんでした）

■日本モンキーセンターが受賞した取り組み

「高齢のニシゴリラの嚥下・身体機能低下時に備えた給餌内容を考える取り組み」

オスでは日本最高齢記録を更新中のニシゴリラの「タロウ」（1973 年 4 月 20 日ドイツ生まれ、1989 年 4 月 13 日に来園、現在 52 歳）に対する高齢個体へのケアの取り組みです。当園の“支猿者”により結成された「エンリッチメントサークル」との連携関係が、正田賞にふさわしいと評価されました。



（写真：高齢者用補助食品を食べるニシゴリラのタロウ）

※「エンリッチメント大賞 2025」および詳細の受賞理由等につきましては、別添の市民 ZOO ネットワーク発表のプレスリリース資料もご確認ください。

■今後の予定

市民 ZOO ネットワークからの公式発表は 2025 年 10 月 22 日（水）、報道解禁日は翌 23 日（木）です。2025 年 12 月 13 日（土）に東京大学 弥生講堂（東京都文京区）にて開催される「エンリッチメント大賞 2025 表彰式・受賞者講演会」で表彰を受けることとなっており、当園からも参加予定です。

本件に関するお問い合わせ先

公益財団法人日本モンキーセンター 〒484-0081 愛知県犬山市犬山官林 26
TEL: 0568-61-2327 FAX: 0568-62-6823 メール: info@j-monkey.jp
問い合わせ先: 綿貫、赤見、江藤、田中

2025 年 10 月 20 日

NPO 法人 市民 ZOO ネットワーク事務局より
「エンリッチメント大賞 2025」決定（予定原稿）のお知らせ

拝啓

みなさまには、日ごろからお世話になっております。

さて、動物園・水族館の取り組みを表彰する「エンリッチメント大賞 2025」の審査が終了し、受賞者・受賞園館が決定いたしましたのでご報告いたします。

● 正式な発表日時について

2025 年 10 月 22 日（水） 23 時 50 分までに

市民 ZOO ネットワーク・ホームページ

<http://www.zoo-net.org/> でおこないます。

● 原稿の解禁（流通）の日時について

テレビ、ラジオの放送と、インターネット利用媒体などは、
10 月 23 日（木）に日付が変わった午前 0 時以降。

新聞、雑誌などの印刷媒体は、
10 月 23 日（木）発行の朝刊以降の掲載。

● 主催者・問い合わせ先について

<市民 ZOO ネットワーク 事務局>

〒167-0031 東京都杉並区本天沼 2-5-10-E

TEL : 03-3395-8568 E-Mail : info@zoo-net.org

<http://www.zoo-net.org/>

代表理事＝佐渡友陽一

担当＝綿貫宏史朗 携帯 090-1514-0935

* 文字原稿の内容確認は、できるだけ E-mail でお送りください。
可能な限り敏速にお返事いたします。

★ 以下は「発表予定原稿」につき、お取り扱いには、特段のご配慮をお願いいたします。

●2025 年 10 月 23 日（木）報道解禁の予定原稿

主催：NPO 法人 市民 ZOO ネットワーク / 後援：公益社団法人 日本動物園水族館協会

「エンリッチメント大賞」は、動物園・水族館に対する社会的な意識を高め、環境エンリッチメント（飼育動物たちの生活環境を豊かにするさまざまな工夫・試み）を推進するため、市民 ZOO ネットワークにより創設されました。第 24 回目となる 2025 年度の授賞 3 件が決定しましたので、ご報告します。

「エンリッチメント大賞 2025」

—ショー、ふれあい、高齢化などの困難にどう向き合うか—

エンリッチメント大賞 2025 には、16 件の取り組みに対して全国から 21 件の応募がありました。そのうち 7 件が一次審査（書類選考）を通過し、スタッフによる現地調査やリモートヒアリングを経て、9 月 14 日に二次審査（審査委員会）がおこなわれました。その結果、奨励賞 2 件、正田賞 1 件が選ばれました！

今年度も、大賞は「該当なし」となりました（2023 年度から 3 年連続）。昨今の日本の動物園・水族館においては、動物福祉（アニマルウェルフェア）についての理解が広がり、環境エンリッチメントの考え方も浸透した状態にあるといえます。日本動物園水族館協会では、会員園館を対象とした「アニマルウェルフェア評価」も始まりました。こうした背景から、環境エンリッチメントの実施が動物飼育に必要な業務とみなされるようになってきたのは間違いありません。その一方で、限られたリソースの中で最大限の工夫を実施することに重心が置かれ、効果の記録、評価、見直しと改善、という科学的根拠に基づくエンリッチメントの基本が十分にできていないようにも見受けられます。今年応募された取り組み内容は、いずれもエンリッチメントの手法としては優れていましたが、「計画」から「見直し」までのすべてのプロセスがきちんと示されたものは多くありませんでした。審査委員会では、福祉向上に至るエンリッチメント実践の基本的プロセスを重要視し、今年も大賞を選出しない結果となりました。

そのような状況下で、一次審査通過となった取り組みはいずれも、動物によるショーの実施、ふれあい、高齢個体の展示などの制限の多い困難な状況下で、できるだけその動物たちが幸せに暮らせるよう工夫を凝らして取り組んだ模範的な事例だといえます。これらの取り組みは、前提条件は異なるものの、日々の観察による現状把握から課題を明確化したうえで対策の検討を始めているという点で共通しているといえます。適切な科学的評価という点では検討・改善の余地があるものの、課題に対して試行錯誤し不断の努力で取り組んでいる姿勢は、他の施設にも大いに参考になるものです。私たちは、あらためて動物飼育におけるさまざまな問題についての理解を進める必要性を感じるとともに、今後もこういった取り組みが継続し、発展していくことを期待します。

■奨励賞

マリンワールド海の中道

「バンドウイルカにおける玩具を用いたトレーニングの取り組み」

イルカはショー出演やそのためのトレーニングの都合上、餌や遊具のエンリッチメントが大きく制限されることがあります。そうした条件の中、館全体で動物福祉向上の取り組みが開始され、ショーに出演するイルカたちにも玩具の提供が始まりました。提供時には、個体ごとの行動を詳細に観察・分析し、玩具で遊ばない個体に関しては利用方法のヒントをイルカに教えるトレーニングをおこないました。こうした取り組みとその後の調査、そしてその対応も含めて非常にユニークな取り組みであると評価されました。

行動調査においては、2011年のアメリカでの先行研究をもとに独自の行動分類を設定し、それに基づいた細やかな観察データを取っています。行動の種類を「ポジティブ」、「ネガティブ」という性質で分類したことに関しては、飼育者側の主観が入ることで客観性に欠ける危険性もあるため十分な注意あるいは再検討が求められるところですが、詳細な行動分類と対象個体ごとに統一した観察手法およびその後の分析は、高く評価できます。玩具の導入により多くのイルカは行動レパートリーが増加し、遊び行動が増えましたが、比較的高齢な個体に、玩具への忌避行動が見られました。その個体には脱感作の手法を使って対応したことで、忌避行動がなくなり、玩具によるエンリッチメントが有効になりました。

年齢や性格などにより動物の行動は異なっており、詳細な行動観察によりそれが明らかになりました。行動解析の評価については、各個体の適性に合い、かつなるべくシンプルにデータ採取できる方法の開発を引き続き期待します。そしてその評価方法がほかの園館でも共有されれば、国内のイルカ飼育にとって画期的なものになることでしょう。

マリンワールド海の中道 （まりんわーどうみのなかみち）

<https://marine-world.jp>

〒811-0321 福岡県福岡市東区西戸崎 18-28

TEL : 092-603-0400

■奨励賞

阿蘇ファームランド ふれあい動物王国

「ビーバーの生態を引き出す巣作りの取り組み」

ふれあいを目的とした施設で十分な自然環境が整えられないという制約がありつつも、ビーバーに特徴的な“木を倒し、穴を掘って巣を作る”という行動の発現を可能にし、さらに他園にとっても模範となりうる点が評価されました。

アメリカビーバーは全国の動物園・水族館で飼育されていますが、夜行性であり、川を堰き止めて巣作りができるような飼育環境を整えることが難しい動物種です。同園でもコンクリートの床などの人工的な飼育環境でしたが、敷地内では入手が困難な木材を地域連携によって安定的に調達できるようにし、土砂が流れても排水溝が詰まらないように6種類のネットを使った工夫を施すことにより、ビーバー自身で最初から最後まで巣を作ることができる環境を整えました。また、樹木の採食が増えたことから野菜の給餌量を減らすことができ、口腔内環境の改善にも役立つと考えられます。暗視カメラでの観察では、木材の提供を始めてからは、夜間に池で徘徊するなどの常同行動が減少するとともに、木材や巣材の運搬などの新しい行動が確認されるようになりました。また、日中は群れで巣の中で休息し、午後には起きた個体から巣を出て、探索活動をして餌を食べるなど、野生本来の行動に近い行動が発現できています。ビーバーが扉の前に行くとき担当者が扉を開けてふれあいゾーンに出るという動物自身が選択できる行動はユニークですが、これは外部事業所である長崎バイオパークでも参考にされ、2023年のエンリッチメント大賞「インパクト賞」受賞に結びついています。

今後はエンリッチメント実施前後の科学的な効果検証が求められるところですが、実施手法が他のビーバー飼育施設にもさらに波及していくことを期待します。

阿蘇ファームランドふれあい動物王国 （あそふぁーむらんどふれあいどうぶつおうこく）

<https://asofarmland.co.jp/experience/zoo>

〒869-1404 熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽 5579-3

TEL：0967-67-2100

■正田賞

公益財団法人 日本モンキーセンター

「高齢のニシゴリラの嚥下・身体機能低下時に備えた給餌内容を考える取り組み」

日本の動物園では動物の高齢化が進んでいますが、高齢個体においては身体機能の低下がしばしば課題となります。十分に栄養を摂ることが難しくなると、体力が低下し、福祉の低下に繋がります。また高齢個体の誤嚥による死亡は各動物種で報告されていますが、その対策はあまり進んでいませんでした。

そこで同園では 52 歳のニシゴリラを対象に、人間の高齢者向けに開発された補助食品に注目し、食事の選択肢を広げようと試みました。高齢動物にとって選択肢が増えることは、栄養面だけでなく生活の質を高める効果もあります。これらの補助食品を事前に試行できていたことから、実際の体調不良時の投薬補助や栄養補給に役立ち、回復につながりました。人間の高齢者向けリソースを動物に活用できるという発見は、大きな意義をもちます。とくに大型類人猿を飼育する施設には参考になると思われます。

このアイデアを提案したのは、同園の「エンリッチメントサークル」です。連続講座受講生の有志により 2016 年に結成したボランティア団体で、飼育担当者のニーズを聞き取り、協力しながら活動を続けています。近年は、高齢ゴリラの生活の質の向上のため、新たなエンリッチメントの手法の提案とそれらの実施時の行動観察をおこない、手法別に効果や実施しやすさを評価し、エンリッチメントのレパトリー作成に取り組んできました。今回の補助食品の活用は、人間の医療・介護分野に詳しいメンバーの知見を活かし実現したものです。

動物園が外部の知見を積極的に取り入れた点も高く評価できます。今回の授賞には、他分野の知見を柔軟に取り入れる同園の姿勢が今後さらに多くの園館に広がってほしい、という期待も込めています。

公益財団法人 日本モンキーセンター (こうえきざいだんほうじん にほんもんきーせんたー)
<https://www.j-monkey.jp>
〒484-0081 愛知県犬山市犬山官林 26
TEL : 0568-61-2327

【エンリッチメント大賞 2025】の概要について

募集期間 2025 年 4 月 15 日～6 月 15 日

応募総数 21 通（16 件の取り組みに対し）

審査方法 下記の審査委員による一次審査（書類）、二次審査（追加調査をもとにした審査委員会）により選定。

審査委員

岩田 恵理 氏（元 岡山理科大学獣医学部 教授）

川端 裕人 氏（作家）

幸島 司郎 氏（京都大学 名誉教授）

佐藤 衆介 氏（東北大学 名誉教授）

本田 公夫 氏（The Maritime Aquarium at Norwalk 展示ディレクター臨時代理）

※五十音順

一次審査を通過した取り組み（受賞除く全 4 件）

今回受賞した 3 件のほか、以下の 4 件が一次審査を通過しました。

秋田市大森山動物園：レッサーパンダ・ケンシンおたすけ隊

東武動物公園：

アカゲザル展示場(サル山)の改修工事に伴う新展示場のエンリッチメント化について

名古屋市東山動物園：ホッキョクグマへの採食エンリッチメント

福岡市動物園：福岡市動物園 QOL 向上委員会

【エンリッチメント大賞 2025 表彰式・受賞者講演会】について

2025 年 12 月 13 日（土）**東京大学 弥生講堂（東京都文京区）**にて開催予定

詳細は後日、市民 ZOO ネットワーク ウェブサイトに掲載いたします。

*エンリッチメント大賞 2025 についてのお問い合わせは以下までお願いします。

<市民 ZOO ネットワーク 事務局>

〒167-0031 東京都杉並区本天沼 2-5-10-E

TEL : 03-3395-8568 E-Mail : info@zoo-net.org

<http://www.zoo-net.org/>

代表理事＝佐渡友陽一

担当＝綿貫宏史朗 携帯 090-1514-0935

以上です。最後までお読みいただきありがとうございます。